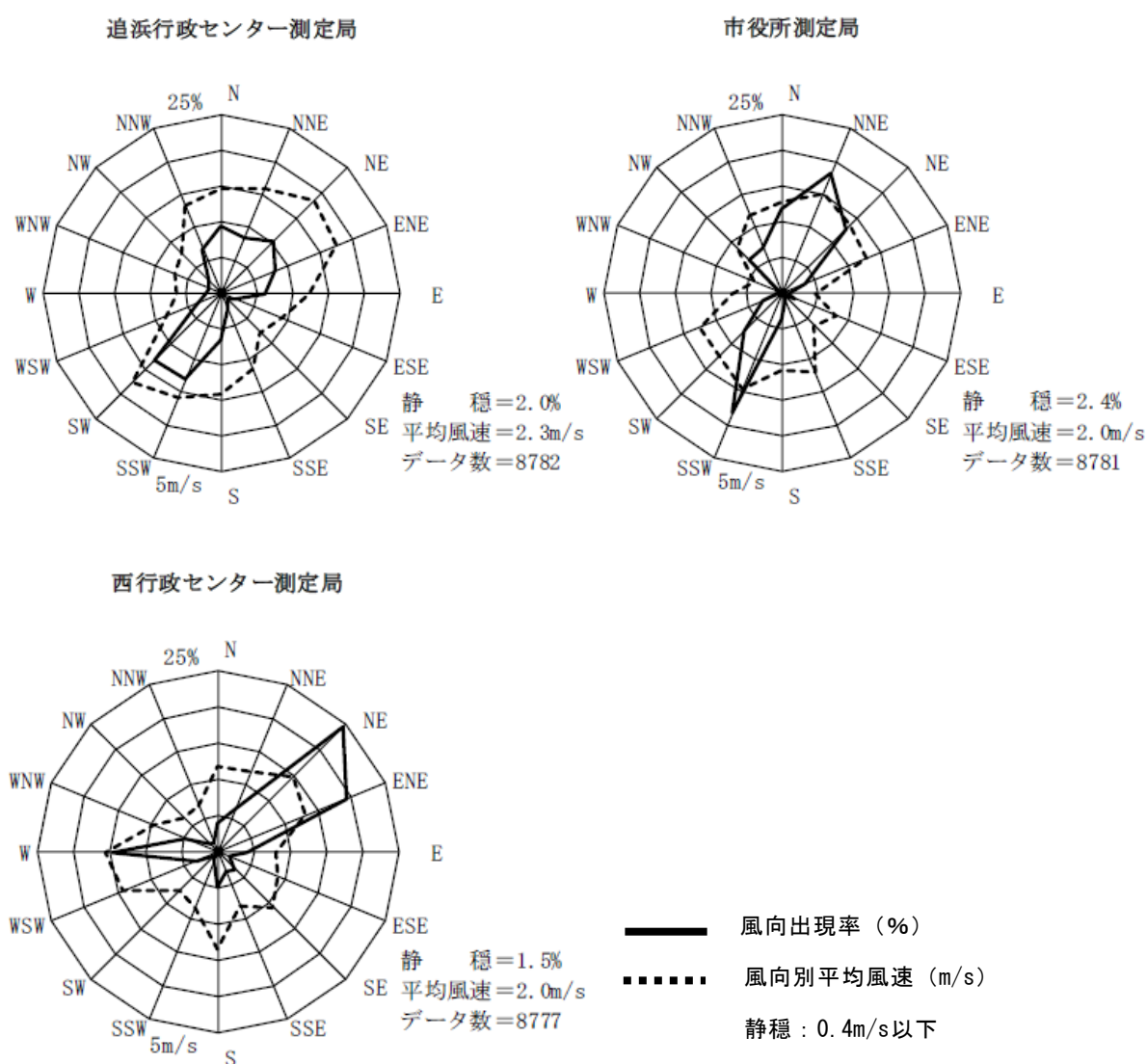


2 自然的状況

2.1 気象

(1) 風向・風速

実施区域周辺の一般環境大気測定局の平成23年度の年間風配図は図3-2-15に示したとおりである。横須賀市役所測定局での年間平均風速は2.0m/s、最多風向は南南西で、追浜行政センター測定局での年間平均風速は2.3m/s、最多風向は南西及び南南西で、西行政センター測定局での年間平均風速は2.0m/s、最多風向は北東となっている。



出典：「横須賀市環境基本計画年次報告書 平成24年度版」（平成25年、横須賀市）
 図3-2-15 風配図(一般環境大気測定局、平成23年度)

(2) 気温、湿度、降水量

海上自衛隊横須賀地方総監部における平成21年から平成24年の気象の概況は表3-2-33に示したとおりである。

平成24年の年間平均気温は16.2℃、年間降水量は2,031.3mmであった。また、月別日平均気温は、8月の27.8℃が最も高く、1月の5.4℃が最も低かった。月別降水量では、9月の369.6mmが最も多く、8月の11.9mmが最も少なかった。

表3-2-33 気象の概況

年次	気温(℃)			平均湿度(%)	降水量(mm)
	日平均	最高	最低		
平成 21 年	16.6	32.7	-0.4	73	1,837.7
平成 22 年	16.9	36.3	0.2	74	1,506.6
平成 23 年	16.6	35.3	-1.7	71	1,466.7
平成 24 年	16.2	34.7	-2.4	72	2,031.3
1 月	5.4	12.2	-0.8	57	30.9
2 月	6.0	17.9	-2.4	62	130.7
3 月	9.3	18.7	2.7	68	207.4
4 月	14.2	24.7	5.3	73	194.4
5 月	19.1	26.5	10.5	75	241.1
6 月	20.9	27.3	15.4	82	209.1
7 月	25.4	34.7	18.2	84	109.7
8 月	27.8	33.4	22.8	81	11.9
9 月	25.5	32.5	18.5	82	369.6
10 月	19.5	28.6	11.5	72	168.5
11 月	13.1	21.4	5.8	67	241.4
12 月	8.0	17.4	0.0	61	116.6

注) 海上自衛隊 横須賀地方総監部調

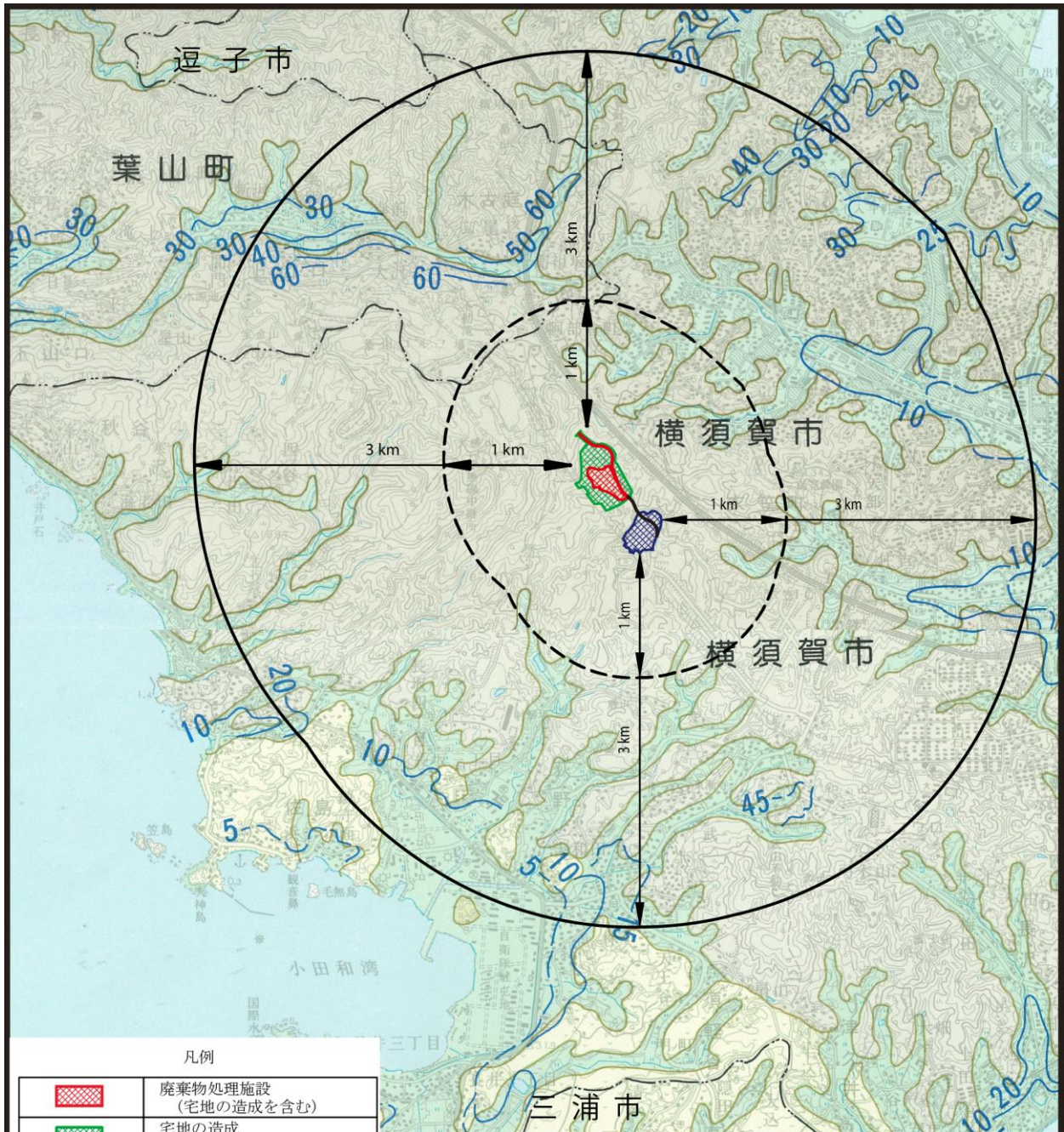
出典: 「気象概況」 (平成 25 年、横須賀市)

2.2 水 象

(1) 地下水及び湧水の分布状況

「神奈川県 地下水位・水頭分布図」（平成6年、神奈川県温泉地学研究所）による実施区域周辺の地下水位の状況は、図3-2-16に示したとおりであり、地下水位は、標高で10m以上となっている。地下水の流向については、地形及び河川流域界（前掲図3-2-6参照）及び図3-2-16より判読すると、実施区域の地下水は南西方向へ流下していると思われる。

なお、本市では水道水として走水水源地で湧水を利用しているが、実施区域周辺には湧水として目立った箇所は見られない。



凡例	
	廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
	宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
	発生土処理場
	新設搬入道路
	既設改修道路
	地下水位等高線 (標高[m])
	市町界

地形分類	
	山地・丘陵
	段丘
	沖積平野・砂丘等

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「神奈川県地下水位・水頭分布図」
(平成6年、神奈川県温泉地学研究所)



図3-2-16 浅層地下水位分布図

(2) 河川の流量

実施区域周辺の河川調査地点の平成23年度における河川流量の調査結果は、表3-2-34(1/3)～(3/3)に示すとおりである。

表3-2-34(1/3) 河川流量(年間：平成23年度)

地点番号	河川・調査地点			項目 最大値 (m ³ /s)	最小値 (m ³ /s)	平均値 (m ³ /s)	測定回数 (回)	測定機関
	水域名称	類型名称	地点名称					
①	松越川	河川 E	竹川合流後	5.150	-0.637	0.264	24	横須賀市
⑦	平作川	河川 B	夫婦橋	12.640	-16.320	0.409	24	

注) 地点番号は図 3-2-10(P. 55)に対応する。

出典：「平成 23 年度 神奈川県水質調査年表」(平成 25 年、神奈川県環境科学センター)

表3-2-34(2/3) 河川流量(松越川：平成23年度)

河川・調査地点			項目		採取年月日	採取時刻	採取位置	天気	前日天気	気温 (℃)	水温 (℃)	流速 (m/s)	流量 (m ³ /s)	測定機関
水域名称	類型名称	地点名称												
松越川	河川 E	竹川合流後	流心(中央)	平成 23 年 4 月 13 日	10:20	流心(中央)	快晴	降雨なし	17.0	15.8	0.071	0.253	横須賀市	
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	20.6	20.7	0.096	0.101			
				平成 23 年 5 月 17 日	10:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	19.1	18.5	0.138	0.208		
				16:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	19.8	21.2	0.084	0.720			
				平成 23 年 6 月 1 日	10:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	17.5	17.5	0.225	0.436		
				16:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	17.9	18.5	0.074	1.116			
				平成 23 年 7 月 6 日	10:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	33.2	28.1	0.104	0.338		
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	31.4	32.5	0.092	0.111			
				平成 23 年 8 月 3 日	10:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	32.4	31.0	0.116	0.092		
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	31.1	30.6	0.057	0.140			
				平成 23 年 9 月 7 日	10:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	28.6	28.5	-0.029	-0.150		
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	29.5	29.5	0.146	1.221			
				平成 23 年 10 月 12 日	10:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	27.0	22.8	0.189	0.257		
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	24.2	23.5	0.064	0.641			
				平成 23 年 11 月 9 日	10:20	流心(中央)	曇り	5mm 以上 10mm 未満	17.5	16.2	0.106	0.320		
				16:20	流心(中央)	曇り	5mm 以上 10mm 未満	16.5	19.4	0.079	0.926			
				平成 23 年 12 月 15 日	10:20	流心(中央)	快晴	0mm 以上 5mm 未満	15.0	12.5	0.203	1.254		
				16:20	流心(中央)	快晴	0mm 以上 5mm 未満	13.2	11.9	-0.090	-0.637			
				平成 24 年 1 月 11 日	10:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	8.2	12.5	0.078	0.375		
				16:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	9.8	13.5	0.073	0.849			
平成 24 年 2 月 14 日	10:35	流心(中央)	曇り	降雨なし	6.4	10.0	0.100	0.545						
16:35	流心(中央)	雨	降雨なし	5.8	8.1	0.146	0.221							
平成 24 年 3 月 7 日	10:20	流心(中央)	曇り	10mm 以上 20mm 未満	13.0	13.3	0.316	0.842						
16:20	流心(中央)	曇り	10mm 以上 20mm 未満	13.6	13.3	0.445	5.150							

出典：「平成 23 年度 神奈川県水質調査年表」(平成 25 年、神奈川県環境科学センター)

表3-2-34(3/3) 河川流量(平作川：平成23年度)

河川・調査地点			項目	採取年月日	採取時刻	採取位置	天気	前日天気	気温(℃)	水温(℃)	流速(m/s)	流量(m ³ /s)	測定機関
水域名称	類型名称	地点名称											
平作川	河川B	夫婦橋		平成23年 4月13日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	15.3	15.2	-0.106	-8.479	横須賀市
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	21.5	17.1	0.069	5.304	
				平成23年 5月17日	9:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	21.0	18.6	0.118	6.307	
					15:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	22.0	19.6	-0.203	-16.320	
				平成23年 6月1日	9:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	18.4	18.7	0.186	12.640	
					15:20	流心(中央)	曇り	降雨なし	19.2	19.6	-0.082	-7.775	
				平成23年 7月6日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	32.5	26.4	0.043	3.786	
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	32.2	27.7	-0.033	-2.075	
				平成23年 8月3日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	31.4	26.8	0.116	9.859	
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	28.7	27.1	-0.137	-9.693	
				平成23年 9月7日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	26.8	27.3	-0.052	-4.005	
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	31.4	29.3	-0.072	-7.000	
				平成23年 10月12日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	23.6	21.7	0.107	8.052	
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	26.4	23.0	-0.115	-10.810	
				平成23年 11月9日	9:20	流心(中央)	曇り	10mm以上20mm未満	18.4	17.4	0.104	8.237	
					15:20	流心(中央)	曇り	10mm以上20mm未満	17.8	18.0	-0.082	-8.259	
				平成23年 12月15日	9:20	流心(中央)	快晴	5mm以上10mm未満	9.0	13.4	0.010	0.935	
					15:20	流心(中央)	快晴	5mm以上10mm未満	14.9	15.1	-0.063	-5.288	
				平成24年 1月11日	9:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	7.0	10.0	0.075	6.785	
					15:20	流心(中央)	晴れ	降雨なし	11.4	12.3	-0.122	-11.100	
				平成24年 2月14日	9:25	流心(中央)	曇り	降雨なし	7.3	11.2	0.084	7.603	
					15:25	流心(中央)	雨	降雨なし	7.2	10.1	0.039	2.389	
				平成24年 3月7日	9:20	流心(中央)	曇り	20mm以上30mm未満	13.5	15.1	0.067	4.933	
					15:20	流心(中央)	曇り	20mm以上30mm未満	13.6	13.3	0.042	4.159	

出典：「平成23年度 神奈川県水質調査年表」(平成25年、神奈川県環境科学センター)

2.3 地 象

(1) 地 形

実施区域周辺の地形分類図は図3-2-17に示すとおりである。

本市の大部分は、大楠山、武山などの標高200m前後の稜線を持つ山地と丘陵地からなり、この丘陵地の東側と南側に比較的上面が平坦な台地が分布し、宅地や農地に利用されている。低地は谷部と海岸部に分布し、比較的広い低地は小田和湾と平作川流域に広がるにすぎず、東京湾岸などの海岸部には狭い低地が点在する。また、東京湾岸では埋立地が目立っている。

(2) 地 質

実施区域周辺の表層地質図を図3-2-18に示す。

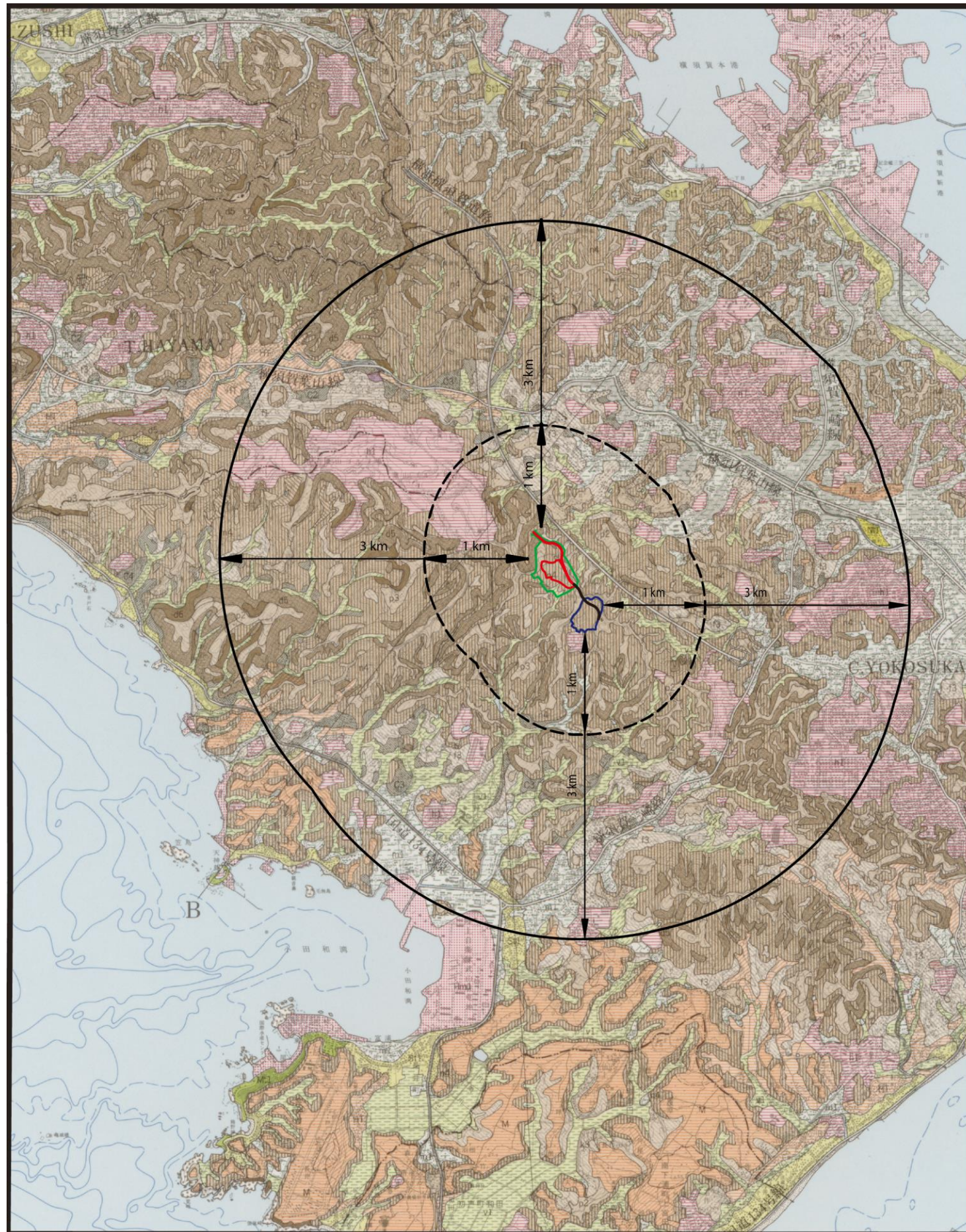
本市の基盤は、数100万年以前に堆積した葉山層群や三浦層群と、それよりやや新しい本市北部に分布する上総層群からなっている。これらの基盤は泥岩、砂岩等の柔らかい岩石から構成されている。

丘陵地や台地の一部にはやや新しい時代の相模層群がこれらの基盤を覆っている地域もある。相模層群は砂礫や砂などからなり、本市東部の小原台地や南部の宮田台地に厚く分布している。また、台地の上部や丘陵地の頂部には富士山や箱根火山の噴火による火山灰からなる関東ローム層がところにより覆っている。

山地や台地は浸食されて部分的に谷になり、新しい堆積物によって覆われ、さらに川を流下した土砂が海岸部に堆積している。特に、平作川流域は厚さ50m以上に達し、軟弱層の厚い地域となっている。

また、近年では海岸部や谷部を埋めた人工地盤からなる盛土地や埋立地が目立つようになっている。盛土は泥岩やロームなどを材料として盛られ、埋立土は砂などからなっている。

(空白)



凡 例

傾斜区分						人工地形	
斜面	0°~3°	3°~8°	8°~15°	15°~30°	30°~40°	40°~	
山頂緩斜面	p1	p2	p3				平坦化地 h1
山腹緩斜面	k1	k2	k3				旧水面上の埋立地 Hm1
山麓緩斜面	f1	f2	f3				盛土地 m1 m2
一般斜面			n3	n4			その他
急斜面					d5	d6	国道・主要地方道
山麓堆積地形							地形界
麓斜面・崖錐		c2	c3	c4			等深線
上石流堆	D1	D2	D3				○ : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
段丘地形							□ : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
下末吉段丘面		s	s	s			□ : 発生土処分場
武蔵野段丘面群		M	M	M			--- : 市町界
完新世段丘面		HT	HT	HT			— : 新設搬入道路
低地の微高地							— : 既設改修道路
扇状地		fn1	fn2	fn3			
自然堤防		N1					
砂堆・砂州		St1					
低地の一般面							
谷底平野		v1	v2	v3			
海岸平野・三角州		Mt1					
磯		si					
浜		b1					

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「地形分類図 横須賀・三崎」(昭和61年、神奈川県)

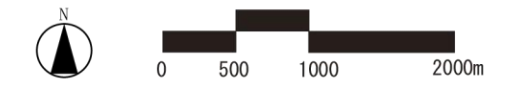
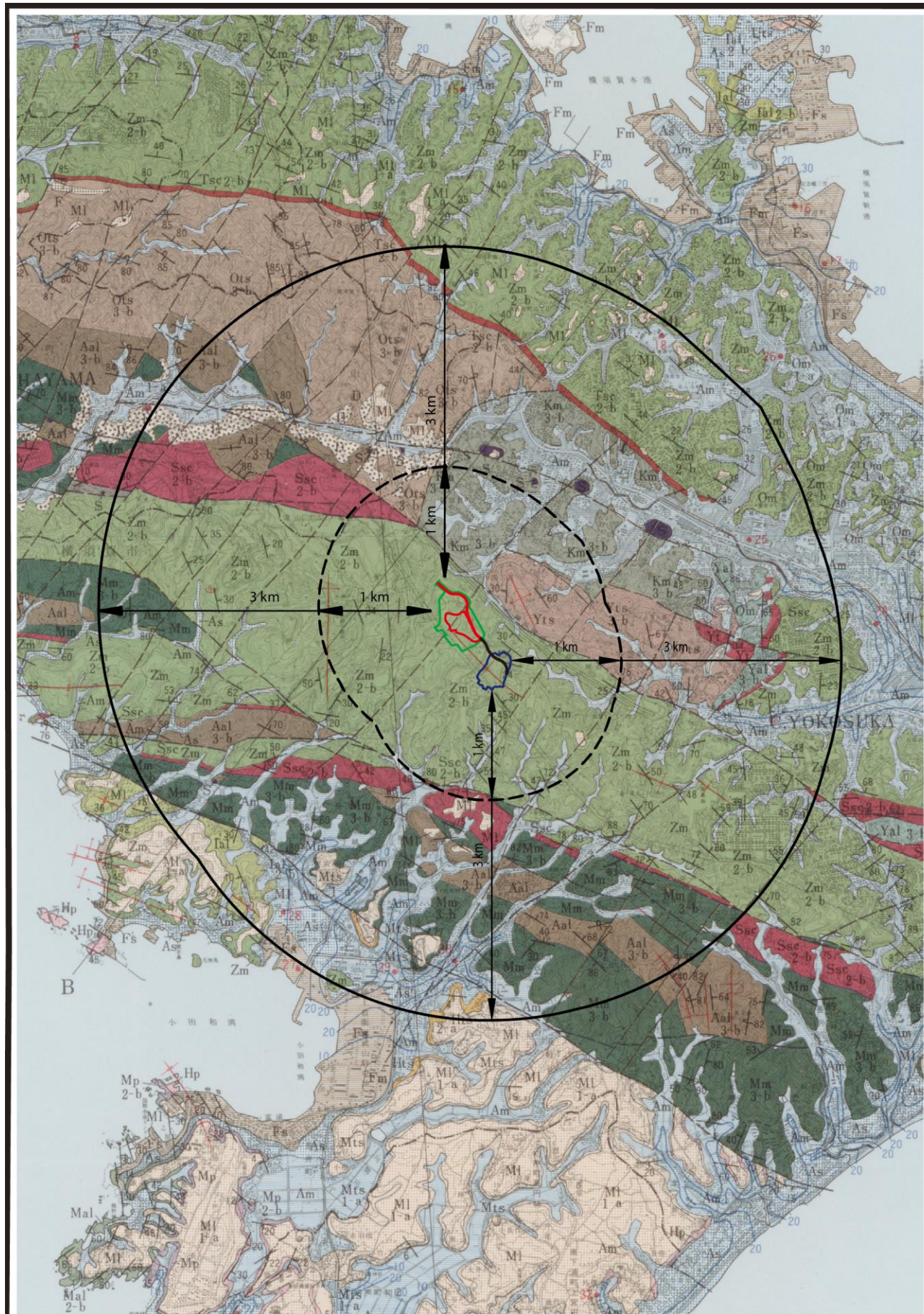


図3-2-17 地形分類図

(空白)



凡 例

<p>未固結堆積物</p> <ul style="list-style-type: none"> Fm,s 海岸の埋め立て土 埋め土 F 陸上の埋め立て土 盛り土 D 表土、二次的な碎屑物・ローム 崖堆積物 Am 泥、砂 As 砂、礫 Ml ローム(軽石層挟む)基底部に三崎砂礫層又は小原台砂礫層を伴う 武蔵野・立川ローム層 Sl ローム(軽石層を挟む)基底部に砂礫含む 下末吉・武蔵野・立川ローム層 <p>半固結堆積物</p> <ul style="list-style-type: none"> Hsc 砂、礫 走水砂礫部層 Om 凝灰質砂泥 大津泥部層 Mts 凝灰質砂・礫 宮田層 Ktsm 凝灰質砂、泥、礫 片瀬層 Hts 凝灰質砂・礫 林層 Ntsm 凝灰質砂岩・泥岩 野島層 Uts 凝灰質砂礫岩 浦郷層 <p>固結堆積物ならびに火成岩類</p> <ul style="list-style-type: none"> Ial 凝灰質泥岩・砂岩 上部層 Ip 凝灰質砂岩、火山礫凝灰岩 下部層 Zm 泥岩・砂岩 返子層 Hp 火砕質砂礫岩 初声層 Mp 火砕岩・火砕質泥岩 油壺層 Mal 凝灰質泥岩・砂岩 三崎町層 Tsc 凝灰質砂礫岩 田越川層 Ssc 凝灰質砂岩、石灰礫岩、石灰砂岩 下山口層 安山岩質玄武岩 カンラン石玄武岩 火成岩類 蛇紋岩、角閃石岩 	<p>沖積層</p> <p>関東ローム層</p> <p>横須賀層</p> <p>相模層群</p> <p>上総層群</p> <p>鮮新世</p> <p>三浦層群</p> <p>第三紀</p> <p>中新世</p>	<p>第四紀</p> <p>更新世</p> <p>鮮新世</p> <p>第三紀</p> <p>中新世</p>	<p>葉山層群</p> <p>矢部層</p> <p>衣笠層</p> <p>大山層</p> <p>鏡摺層</p> <p>森戸層</p>	<p>Yal 凝灰質砂岩・泥岩、泥岩</p> <p>Yt 石英安山岩質凝灰岩</p> <p>Yts 凝灰質砂岩</p> <p>Km 泥岩・砂岩・凝灰岩</p> <p>Ots 凝灰質砂岩・泥岩、細礫岩</p> <p>Aal 凝灰質砂岩・泥岩</p> <p>Mm 泥岩・凝灰岩</p> <p>35 走向・傾斜</p> <p>86 逆転層の走向・傾斜</p> <p>沖積層の等深線</p> <p>断層</p> <p>背斜</p> <p>転倒背斜</p> <p>向斜</p> <p>転倒向斜</p> <p>温泉・鉱泉</p>	<p>○ : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)</p> <p>□ : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))</p> <p>◇ : 発生土処分場</p> <p>--- : 市町界</p> <p>— : 新設搬入道路</p> <p>— : 既設改修道路</p>
--	---	--	--	--	--

出典：「地形分類図 横須賀・三崎」(昭和61年、神奈川県)

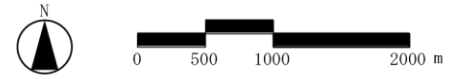


図3-2-18 表層地質図

(空白)

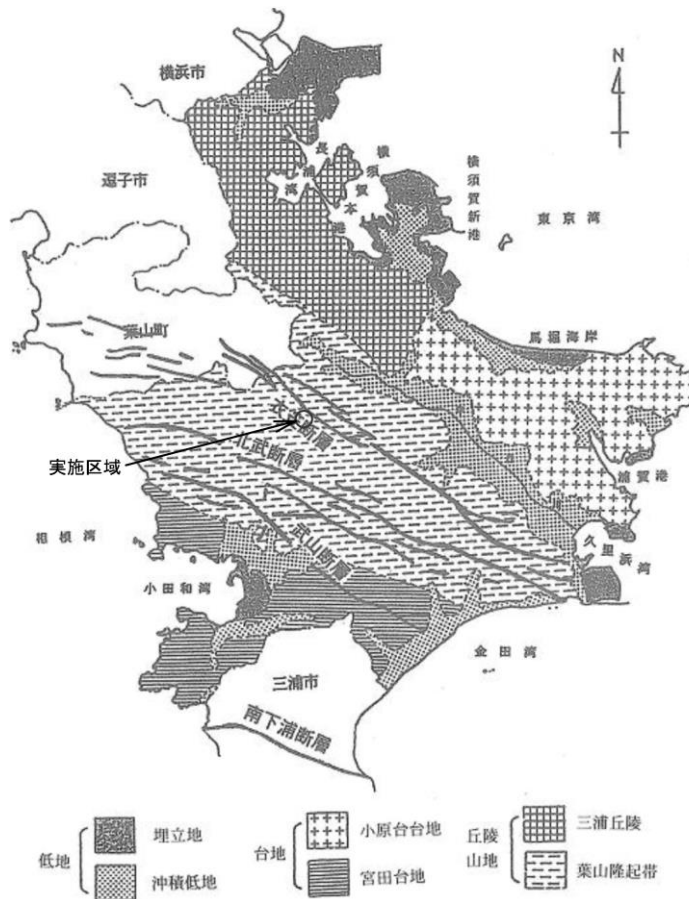
(3) 活断層

三浦半島断層群主部は、過去の活動時期の違いから、北側の衣笠・北武断層帯と南側の武山断層帯の二つに分けられる。

衣笠・北武断層帯の最新活動時期は、6～7世紀であったと考えられ、信頼度は低いとその平均的な活動間隔は概ね1,900年～4,900年程度であった可能性がある。武山断層帯の最新活動時期は、概ね2,300年前以後、1,900年前以前であったと考えられ、その平均的な活動間隔は1,600年～1,900年程度であったと推定される。

なお、1923年大正関東地震の際に、武山断層帯の陸域部の東端付近で、地震断層が出現したことが知られているが、地震断層が現れた範囲は1km程度とごく短い区間であったことから、これは関東地震に付随した活動であり、武山断層帯固有の活動ではないと推定される。

活断層の位置については、図3-2-19に示すとおりである。



出典：「横須賀市地域防災計画 資料編 平成22年度版」（横須賀市ホームページ）

図3-2-19 断層位置図

2.4 生 物

(1) 植 物

実施区域周辺の現存植生図は、図3-2-20に示すとおりである。

実施区域周辺は山地となっており、植生はオニシバリ-コナラ群集、ススキ群団(VII)、オオシマザクラ植林、アカメガシワ-カラスザンショウ群落が認められる。

「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和57年、環境庁)の特定植物群落調査によると、実施区域周辺には表3-2-35に示す特定植物群落指定されている。特定植物群落の位置は図3-2-21に示すとおりである。なお、大松寺林については「三浦半島の自然環境 - 5万分の1自然環境図説明書 - 横須賀市自然博物館編」(平成3年、横須賀市自然博物館)においても報告されている。

表3-2-35 特定植物群落調査結果

番号	件 名	集約群落名	選定基準	相関区分	面積 (ha)
11	天神島の 塩生植物群落	砂丘植生 海岸風衝低木群落	B, D	暖温帯植生	0.02
71	大松寺林	伐跡群落 コナラーオニシバリ群集	E, H	暖温帯常緑 広葉高木林	0.39

注) 1. 番号は図 3-2-21 に対応する。

2. 特定植物群落選定基準

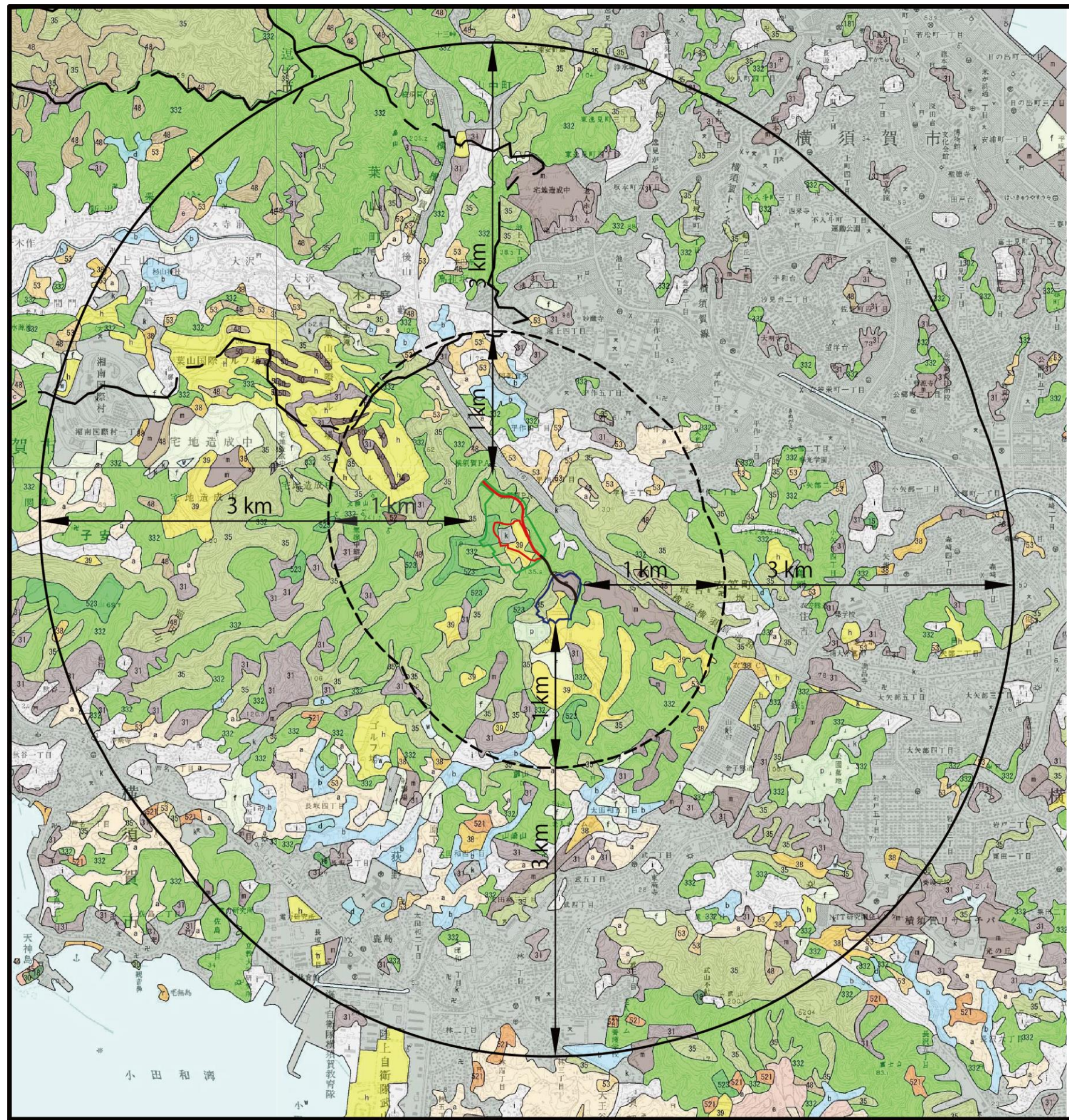
B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山及び石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または群落または個体群

E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
(武蔵野の雑木林、社寺林等)

H: その他、学術上重要な植物群落または個体群

出典: 「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和56年、環境庁)



凡例

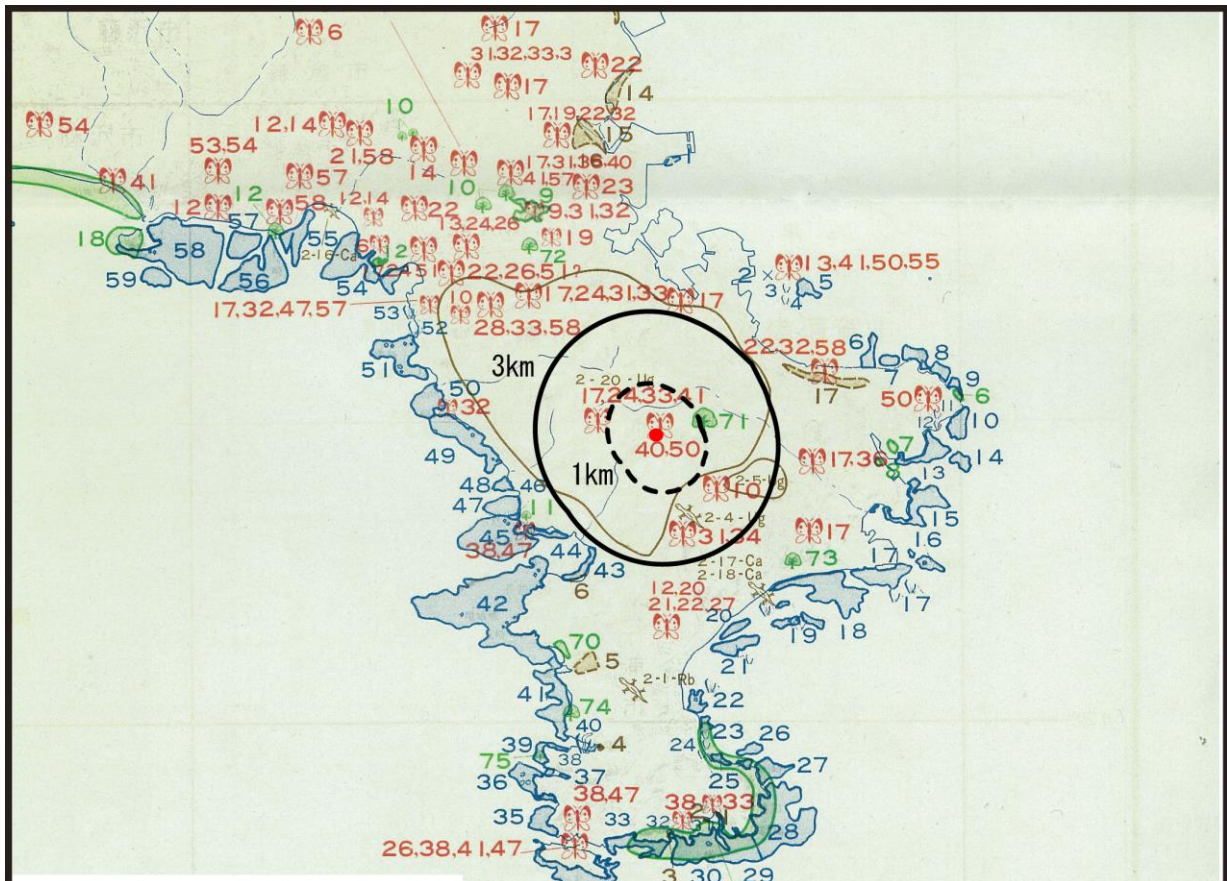
- 15 ヤブコウジ・スダジイ群集
 - 18 タブナ群落
 - 181 イテタブ群落
 - 22 ケヤキ群落(VI)
 - 30 マサキ・ヘラ群落
 - 31 シイ・カシ二次林
 - 332 オシハリーコナ群落
 - 35 アカガシ・ワカサギ・ソウゴ群落
 - 38 低木群落
 - 39 ススキ群団(VII)
 - 41 ショクラス
 - 46 イソギク・ハシショウ・ススキ群落
 - 48 スギ・ヒノキ・サワラ植林
 - 50 クロマツ植林
 - 51 外国産樹種植林
 - 52 その他植林
 - 523 オシマザクラ植林
 - 521 マテバシ植林
 - 53 竹林
 - h ゴルフ場・芝地
 - f 路傍・空地雑草群落
 - c 放棄畑雑草群落
 - e 果樹園
 - a 畑雑草群落
 - b 水田雑草群落
 - d 放棄水田雑草群落
 - k 市街地
 - i 緑の多い住宅地
 - p 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
 - L 工場地帯
 - m 造成地
 - w 開放水域
 - r 自然裸地
- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 - : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
 - : 発生土処分場
 - : 市町界
 - : 新設搬入道路
 - : 既設改修道路

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典: 「第6回・第7回自然環境保全基礎調査
植生調査 2次メッシュ情報(横須賀・秋谷・浦賀・鎌倉)」
(生物多様性センターホームページ)

図3-2-20 現存植生図

(空白)



特定植物群落

番号	件名
71	大松寺林

昆虫類

番号	種名
10	ゲンジボタル
17	オニヤンマ
24	アカスジキンカメムシ
31	アオバセセリ
33	オナガアゲハ
34	ミヤマカラスアゲハ
40	スミナガシ
41	アサギマダラ
50	ヒラタクワガタ

両生類・は虫類

種略号	種名
Ug	トウキョウサンショウウオ

注)1 両生類・は虫類の図上分布位置の脇の数字及び記号は、「地図番号」-「対照番号」-「種略号」を意味し、「動物分布(両生類・は虫類)調査報告書の調査票」と対照できるようになっている。

2 実施区域の周囲3kmの範囲で生育・生息する特定植物群落、昆虫類、両生類・は虫類を示す。

凡例

●	実施区域		
○ (緑)	特定植物群落	○ (白)	沼場 (現存)
○ (黄)	両生類・は虫類	○ (白) X	沼場 (消滅)
○ (青)	淡水魚類	○ (白)	国立公園
○ (赤)	昆虫類	○ (斜線)	国定公園
○ (黄) X	干潟 (現存)		
○ (黄) X	干潟 (消滅)		

出典：「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」(昭和56年、環境庁)

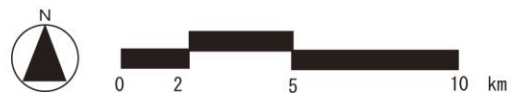


図3-2-21 動植物分布図

また、植物については、「第3回自然環境保全基礎調査」（昭和59年度、環境庁）及び「第4回自然環境保全基礎調査」（平成2年、環境庁）において、それぞれ「みどりのたより No. 2」（昭和60年、環境庁）、「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」（緑の国勢調査協力会）に身近な生きもの調査としてまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された植物は表3-2-36に示すとおりである。

表3-2-36 既存資料で確認された植物種

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
トクサ	スギナ	第4回		
ヒルガオ	セイヨウヒルガオ	第3回		
	ヒルガオ・コヒルガオ	第3回		
ゴマノハグサ	オオイヌノフグリ	第4回		
ゴマノハグサ	タヌキモ類	第3回	フサタヌキモ：絶滅危惧ⅠB類 (EN) ノタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ミカワタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ヤチコタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) イヌタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) オオタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) ヒメタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) タヌキモ：準絶滅危惧 (NT)	イヌタヌキモ：絶滅危惧ⅠA類 タヌキモ：絶滅危惧ⅠA類
オミナエシ	オミナエシ	第3回、第4回		
キキョウ	キキョウ	第3回	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧ⅠA類
キク	セイタカアワダチソウ	第3回、第4回		
	アカミタンポポ	第3回、第4回		
	オオブタクサ	第3回		
	シロバナタンポポ	第4回		
	セイヨウタンポポ	第3回、第4回		
	センダングサ	第3回		
	タチアワユキセンダングサ	第3回		
	ハルジオン	第3回		
	ヒメジョオン	第3回		
	ヘラブヒメジョオン	第3回		
	在来タンポポ	第3回、第4回		
ナデシコ	オランダミミナグサ	第3回		
	ミミナグサ	第3回		
キンボウゲ	ニリンソウ	第3回、第4回		
スイレン	コウホネ類	第3回	シモツケコウホネ：絶滅危惧ⅠA類 (CR) オグラコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ネムロコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) オグラコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) オゼコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ヒメコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ヒメコウホネ：絶滅 コウホネ：絶滅危惧ⅠA類
バラ	ミズヒキ	第4回		
カタバミ	ムラサキカタバミ	第3回		
ブドウ	ヤブガラシ	第3回		
キブシ	キブシ	第4回		
ウリ	アレチウリ	第3回		
	カラスウリ	第4回		
アカバナ	アレチマツヨイグサ	第3回		
	オオマツヨイグサ	第3回		
	コマツヨイグサ	第3回		
ヒルムシロ	エビモ	第3回		
ユリ	カタクリ	第3回、第4回		絶滅危惧ⅠB類
	チゴユリ	第3回		
	テッポウユリ	第3回		
ヒガンバナ	ヒガンバナ	第4回		
ミズアオイ	ホテイアオイ	第3回		

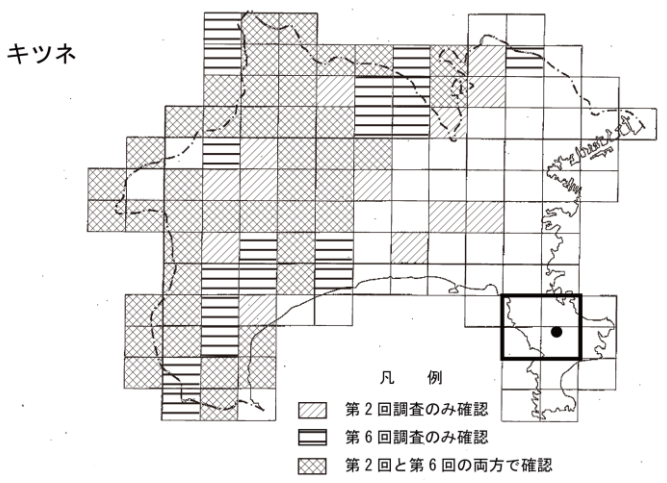
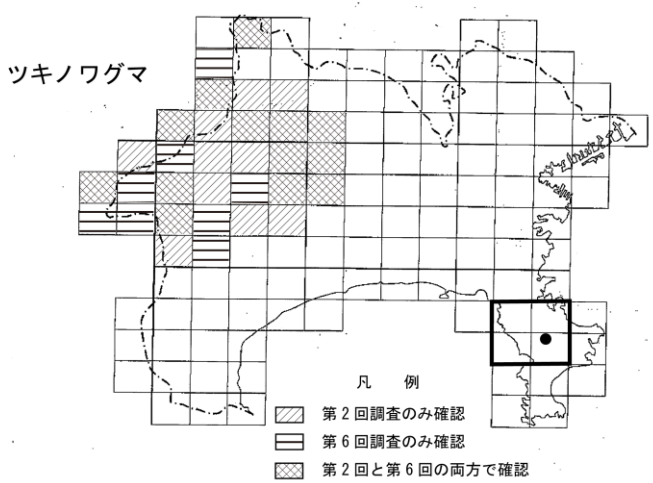
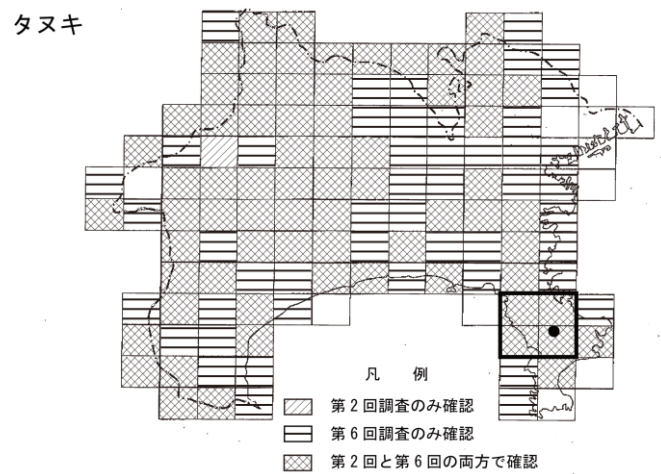
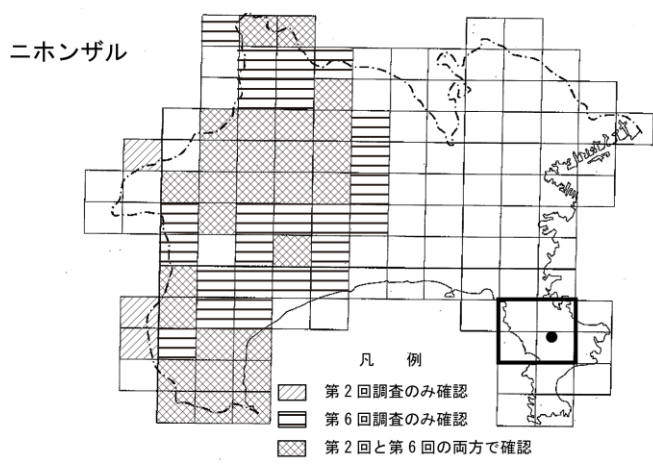
- 注) 1. タヌキモ類及びコウホネ類の確認種は不明である。
 2. 在来タンポポとはカントウタンポポ及びカンサイタンポポ等を示し、これに対しセイヨウタンポポ及びアカミタンポポ等は外来タンポポとなる。
 3. 環境省レッドリスト：
 「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 - レッドデータブック - 植物Ⅰ 環境省編」
 「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 - レッドデータブック - 植物Ⅱ 環境省編」
 神奈川県レッドデータブック：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」
 出典：「みどりのたより No. 2」(昭和60年、環境庁)
 「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」(緑の国勢調査協力会)

(2) 動物

ア 哺乳類

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物調査分布図 神奈川県」（昭和56年、環境庁）及び「第6回自然環境保全基礎調査」（平成15年～17年、環境省）では、図3-2-22(1/2)～(2/2)に示すとおり、哺乳類としてニホンザル、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ニホンイノシシ、ニホンジカ及びカモシカを調査対象としている。

実施区域を含む10km四方の範囲ではタヌキ及びアナグマの生息が記録されている。

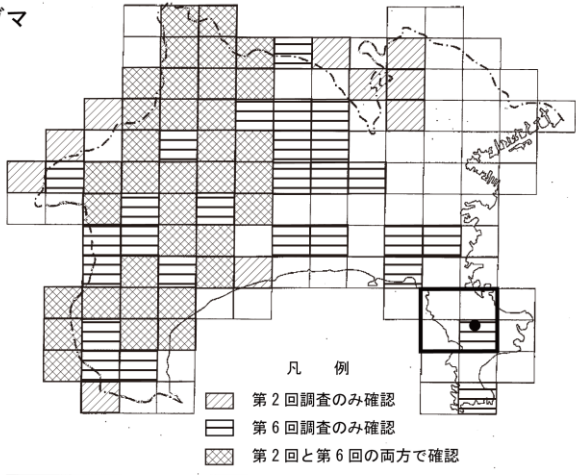


図中の●は実施区域、 は実施区域周辺が含まれるメッシュを示す。

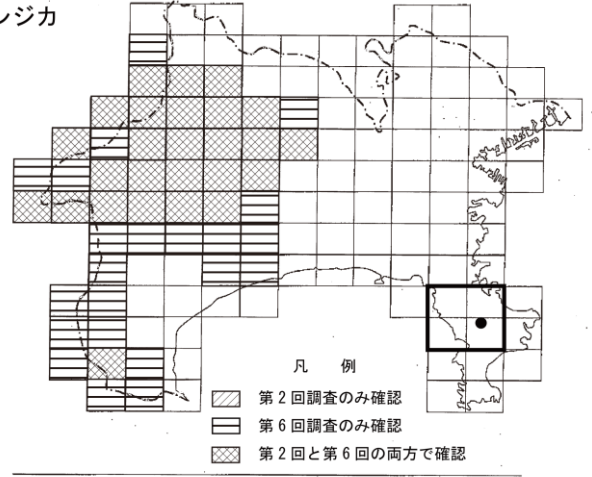
環境省ホームページ資料より作成

図3-2-22(1/2) 既存資料で確認された哺乳類の生息メッシュ図

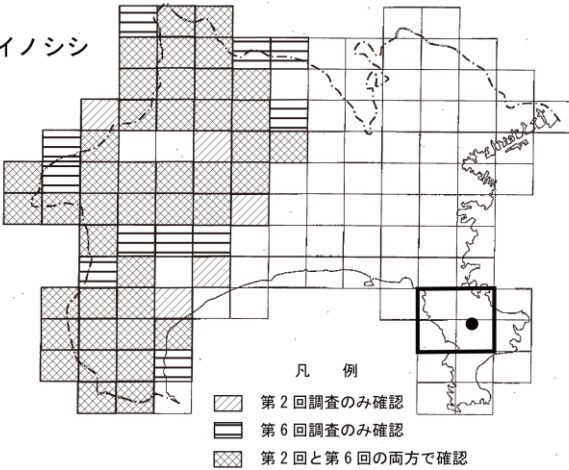
アナグマ



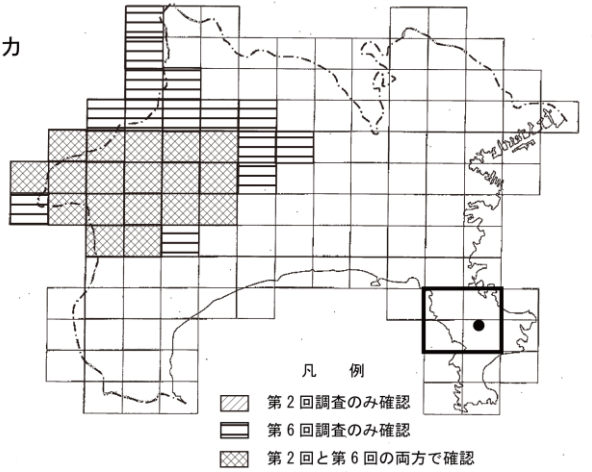
ニホンジカ



ニホンイノシシ



カモシカ



図中の●は実施区域、 は実施区域周辺が含まれるメッシュを示す。

環境省ホームページ資料より作成

図3-2-22(2/2) 既存資料で確認された哺乳類の生息メッシュ図

イ 鳥 類

鳥類については、「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」（昭和63年、環境庁）、「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら）」（平成6年、環境庁自然保護局（財）日本野鳥の会）及び「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成16年、環境省自然環境局 生物多様性センター）にまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された注目すべき鳥類（神奈川県レッドデータブックに記載されている鳥類）は表3-2-37に示すとおりである。

また、猛禽類であるフクロウ及びアオバズクについては「三浦半島の自然環境 — 5万分の1自然環境図説明書— 横須賀市自然博物館編」（平成3年、横須賀市自然博物館）においても同様の報告がみられる。

表3-2-37 既存資料で確認された鳥類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
フクロウ科	フクロウ	第3回、第6回		準絶滅危惧種
	アオバズク	第6回		絶滅危惧Ⅱ類
ウ科	ウミウ	第3回		準絶滅危惧種
	ヒメウ	第3回	絶滅危惧ⅠB類（EN）	準絶滅危惧種
チドリ科	タグリ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
シギ科	イソシギ	第3回		希少種
セキセイ科	キセキレイ	第3回、第6回		減少種
	セグロセキレイ	第3回、第6回		減少種
	ビンズイ	第3回		絶滅危惧Ⅱ種
モズ科	モズ	第3回、第6回		減少種
ツグミ科	ルリビタキ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
	トラツグミ	第3回		減少種
	アカハラ	第3回		減少種
シジュウカラ科	コガラ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
ホオジロ科	アオジ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
	クロジ	第3回		絶滅危惧Ⅰ類
アトリ科	カワラヒワ	第3回、第6回		減少種
ツバメ科	ツバメ	第4回、第6回		減少種
カササビヒタキ科	サンコウチョウ	第6回		絶滅危惧Ⅱ類

注）環境省レッドリスト：「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物2 — レッドデータブック— 鳥類 環境省編」

神奈川県レッドデータブック：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」（昭和63年、環境庁）

「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら）」
（平成6年、環境庁自然保護局（財）日本野鳥の会）

「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」
（平成16年、環境省自然環境局 生物多様性センター）

ウ 両生類・爬虫類

両生類・爬虫類については、「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（昭和63年、環境庁）、「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（両生類・爬虫類）」（平成5年、環境庁自然保護局）及び「生物多様性調査 動物分布調査報告書（両生類・爬虫類）」（平成13年、環境省自然環境局 生物多様性センター）にまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された両生類・爬虫類は表3-2-38に示すとおりである。また、ここでは、「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）で確認された種についても示す。

なお、「三浦半島の自然環境 -5万分の1自然環境図説明書- 横須賀市自然博物館編」（平成3年、横須賀市自然博物館）においても同様の両生類・爬虫類について報告がみられる。

表3-2-38 既存資料で確認された両生類・爬虫類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ	第2回、第3回、第4回、第5回	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類
ヒキガエル科	アズマヒキガエル	第3回、第4回、第5回		要注意種
アマガエル科	アマガエル	第3回、第4回、第5回		
アカガエル科	ヤマアカガエル	第3回、第4回、第5回		
	ウシガエル	第3回、第5回		
	ニホンアカガエル	第3回、第4回、第5回		絶滅危惧Ⅱ類
	トノサマガエル	第5回	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類
	ツチガエル	第5回		要注意種
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	第3回、第4回、第5回		要注意種
ヤモリ科	ヤモリ	第3回、第5回		
イモリ科	イモリ	第4回		絶滅危惧Ⅰ類
トカゲ科	トカゲ (ニホントカゲ)	第5回		要注意種
ヘビ科	アオダイショウ	第4回、第5回		要注意種
	タカチホヘビ	第5回		
	シマヘビ	第5回		要注意種
	ヒバカリ	第5回		準絶滅危惧
	ヤマカガシ	第5回		要注意種
クサリヘビ科	マムシ	第4回、第5回		要注意種
カナヘビ科	カナヘビ	第5回		
イシガメ科	クサガメ	第5回		
	イシガメ	第5回		絶滅危惧Ⅰ類

注) 1. 環境省レッドリスト：「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 -レッドデータブック- 爬虫類・両生類 環境省編」

神奈川県レッドデータブック：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」

2. 「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）での確認種は、実施区域の周囲3kmで生息する種について示した。

出典：「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）

「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（昭和63年、環境庁）

「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（両生類・爬虫類）」

（平成5年、環境庁自然保護局）

「生物多様性調査 動物分布調査報告書（両生類・爬虫類）」

（平成13年、環境省自然環境局 生物多様性センター）

エ 昆虫類

昆虫類については、「第3回自然環境保全基礎調査」（昭和59年度、環境庁）、「第4回自然環境保全基礎調査」（平成2年、環境庁）及び「第5回自然環境保全基礎調査」（平成7～9年度、環境庁）において、それぞれ「みどりのたより No.2」（昭和60年、環境庁）、「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」（緑の国勢調査協力会）及び「第5回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）’95身近な生きもの調査 セミの抜け殻データ総目録」（平成10年、環境庁自然保護局 生物多様性センター）に身近な生きもの調査としてまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された昆虫類は表3-2-39に示すとおりである。また、ここでは、「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）で確認された種についても示す。

表3-2-39 既存資料で確認された昆虫類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
ヤンマ	ギンヤンマ	第4回		
オニヤンマ	オニヤンマ	第2回、第4回		
トンボ	ハッチョウトンボ	第3回		
キリギリス	キリギリス	第3回		
コオロギ	アオマツムシ	第4回		
	マツムシ	第4回		要注意種
カメムシ	クマゼミ	第4回、第5回		
	アブラゼミ	第5回		
	ツクツクボウシ	第5回		
	ミンミンゼミ	第3回、第4回、第5回		
	ニイニイゼミ	第5回		
	ヒグラシ	第3回、第4回、第5回		
キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	第2回		
ミノガ	オオミノガ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
タテハチョウ	オオムラサキ	第3回、第4回	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧
	スミナガシ	第2回		要注意種
	アサギマダラ	第2回		
アゲハチョウ	アオスジアゲハ	第4回		
	オナガアゲハ	第2回		
	ミヤマカラスアゲハ	第2回		
セセリチョウ	アオバセセリ	第2回		要注意種
ハンミョウ	ハンミョウ	第3回		
コガネムシ	カブトムシ	第3回、第4回		
クワガタムシ	ヒラタクワガタ	第2回		絶滅危惧Ⅱ類
ホタル	ゲンジボタル	第2回、第3回、第4回		
	ヘイケボタル	第4回		準絶滅危惧

注) 1. 環境省レッドリスト：「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物5 - レッドデータブック - 昆虫類 環境省編」

神奈川県レッドデータブック：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」

2. 「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）での確認種は、実施区域の周囲3kmで生息する種について示した。

出典：「第2回自然環境保全基礎調査（神奈川県動植物分布図）」（昭和56年、環境庁）

「みどりのたより No.2」（昭和60年、環境庁）

「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」（緑の国勢調査協力会）

「第5回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）’95 身近な生きもの調査

セミの抜け殻データ総目録」（平成11年、環境庁自然保護局 生物多様性センター）

3 その他の状況

3.1 文化財の分布

(1) 指定文化財

実施区域周辺の指定文化財の分布状況は表3-2-40、図3-2-23に示すとおりである。

実施区域周辺には国指定1件、県指定3件及び市指定2件の文化財がある。なお、実施区域内には指定文化財はない。

表3-2-40 指定文化財の状況

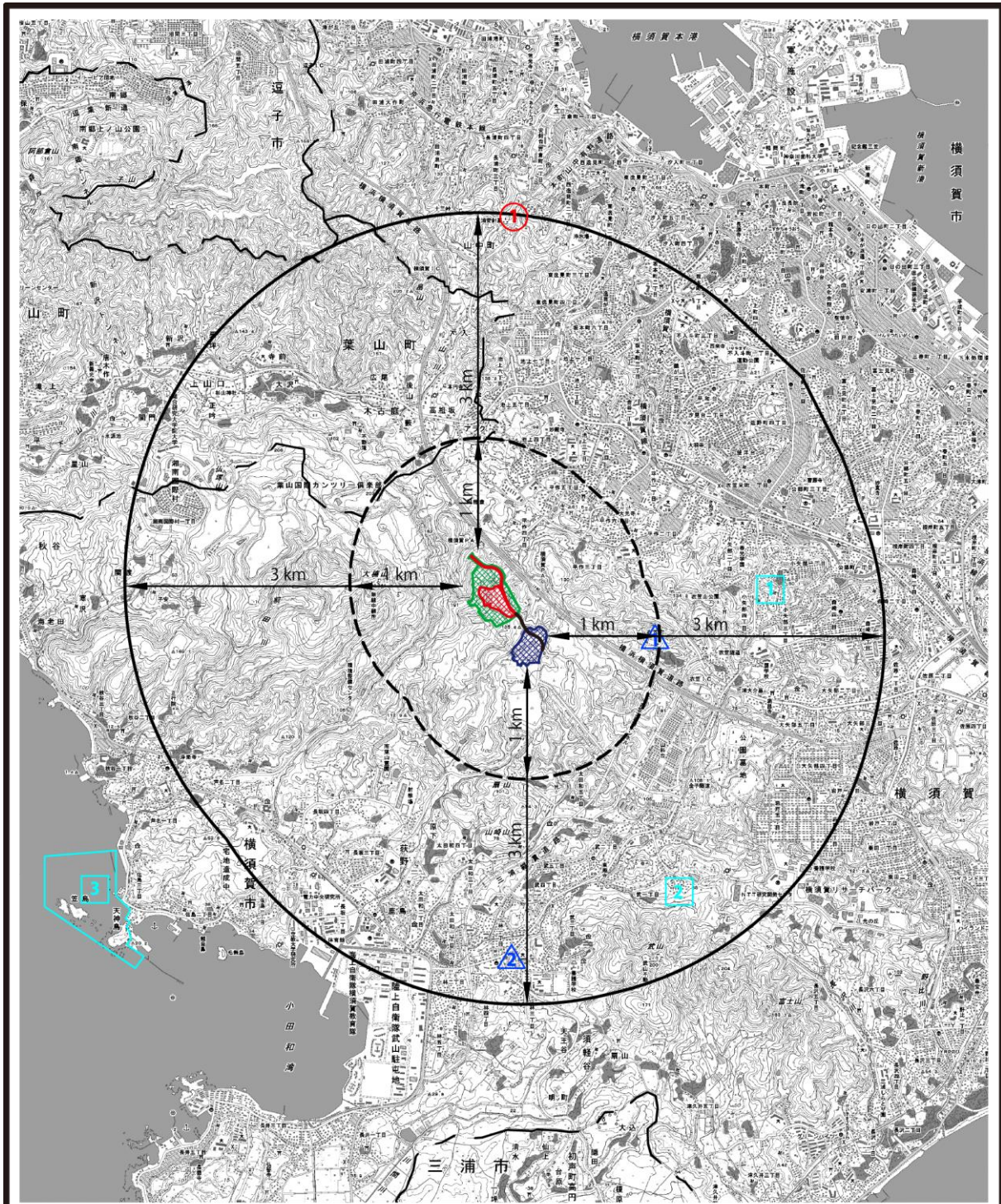
分類	地点番号	市町村	種別	名称
国指定	1	横須賀市	記念物・史跡	三浦安針墓
県指定	1		記念物・天然記念物	大松寺林
	2		記念物・天然記念物	三島社の社叢林
	3		記念物・名勝	天神島・笠島及び周辺水域
市指定	1		記念物・史跡	一騎塚
	2		記念物・史跡	衣笠城跡

出典：「よこすかの文化財」（平成25年、横須賀市教育委員会事務局教育総務部生涯学習課）

(2) 埋蔵文化財

実施区域周辺の周知の埋蔵文化財包蔵地の分布状況は、図3-2-24に示すとおりである。

実施区域周辺には、多くの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在するが、実施区域内には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。また、増設廃棄物埋立地に接する埋蔵文化財包蔵地については、本市教育委員会により調査済である。



凡 例

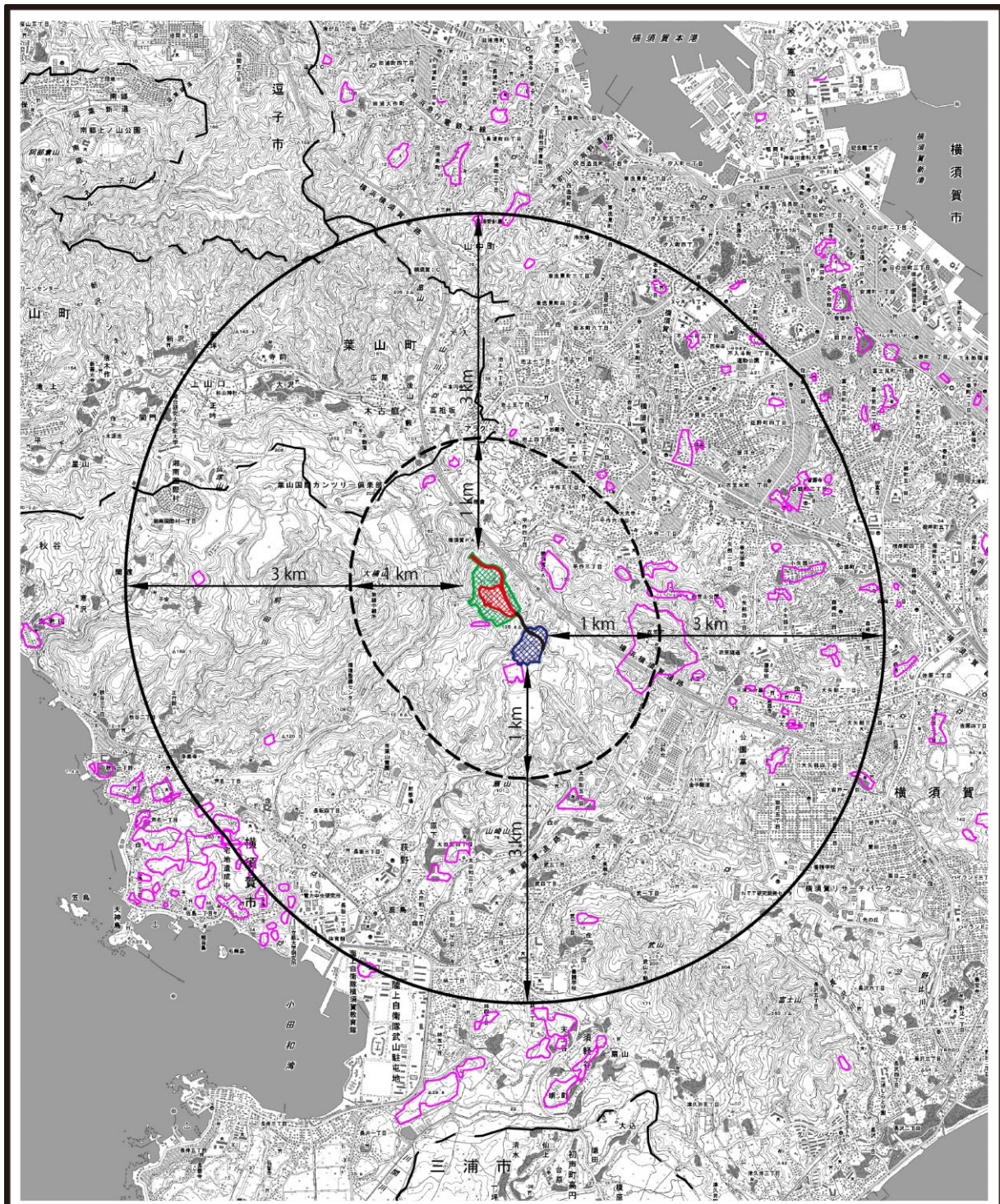
- | | |
|-------------------------|-----------|
| : 廃棄物処理施設
(宅地の造成を含む) | : 新設搬入道路 |
| : 宅地の造成
(残置森林(最大範囲)) | : 既設改修道路 |
| : 発生土処分場 | : 国指定の文化財 |
| : 市町界 | : 県指定の文化財 |
| | : 市指定の文化財 |

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等は含んでいる。

出典: 「埋蔵文化財・指定文化財の地図検索」
横須賀市ホームページ



図3-2-23 指定文化財の分布状況



凡 例

- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
- : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
- : 発生土処分場
- : 市町界
- : 新設搬入道路
- : 既設改修道路
- : 埋蔵文化財包蔵地

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「埋蔵文化財・指定文化財の地図検索」
横須賀市ホームページ



図3-2-24 埋蔵文化財の分布状況

3.2 レクリエーション資源の分布

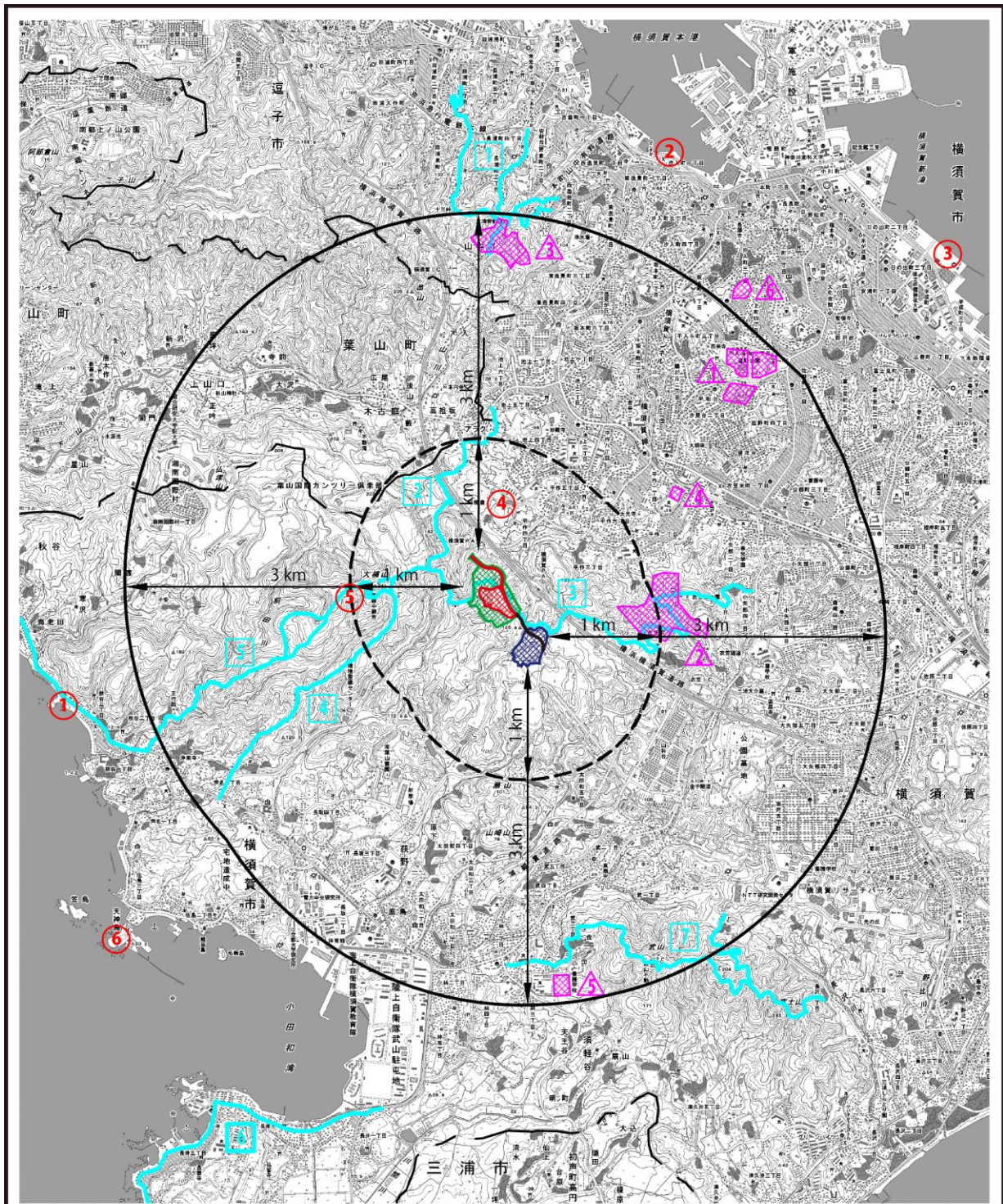
実施区域周辺のレクリエーション資源の分布状況は、表3-2-41及び図3-2-25(1/2)～(2/2)に示すとおりであり、実施区域内には大楠山ハイキングコースの衣笠コースが存在する。

表3-2-41 レクリエーション資源の状況

地点番号	区分	所在地	名称	
1	公園等	横須賀市	不入斗公園	
2			衣笠山公園	
3			塚山公園	
4			衣笠公園	
5			西公園	
6			はまゆう公園	
1	ハイキングコース	横須賀市	大楠山 ハイキング コース	塚山コース
2				阿部倉コース
3				衣笠コース
4				大楠芦名コース※ ¹
5				前田橋コース※ ¹
4・5		横須賀市 葉山町	首都圏自然歩道 (関東ふれあいの道)	佐島・大楠山のみち※ ¹
6		横須賀市 三浦市		荒崎・潮騒のみち
7	横須賀市	武山ハイキングコース		
1	名所	横須賀市	立石公園	
2			ヴェルニー公園	
3			うみかぜ公園	
4			しょうぶ園	
5			大楠平	
6			天神島ビジターセンター	

注) ※¹：関東ふれあいの道の佐島大楠山コースは、大楠山ハイキングコースの大楠芦名コースと前田橋コースと同じコースである。

出典：「よこすか観光案内」（横須賀市観光協会ホームページ）
「かながわの公園緑地マップ」（平成23年、神奈川県）
「横須賀市ホームページ 施設案内」



凡例

- | | |
|-------------------------|------------|
| : 廃棄物処理施設
(宅地の造成を含む) | : 新設搬入道路 |
| : 宅地の造成
(残置森林(最大範囲)) | : 既設改修道路 |
| : 発生土処分場 | : ハイキングコース |
| : 市町界 | : 公園等 |
| | : 名所 |

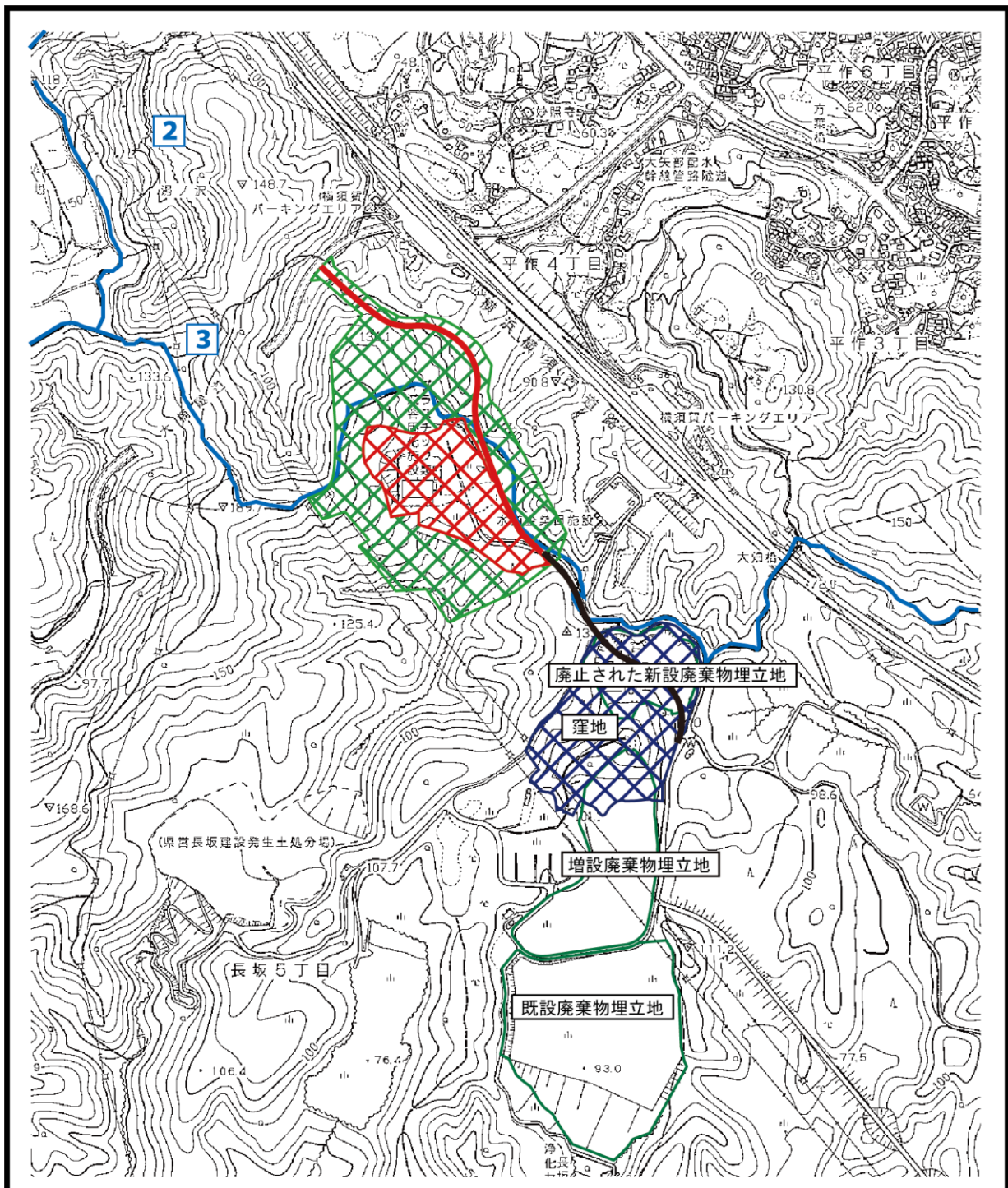
注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「よこすか観光案内」
横須賀市観光協会ホームページ










図3-2-25(1/2)

レクリエーション資源の分布状況



凡例

- | | | | |
|---|-------------------------|---|----------------|
|  | : 廃棄物処理施設
(宅地の造成を含む) |  | : 埋立地 |
|  | : 宅地の造成
(残置森林(最大範囲)) |  | : 新設搬入道路 |
|  | : 発生土処分場 |  | : 既設改修道路 |
| | |  | : ハイキング
コース |

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。



図3-2-25(2/2)

レクリエーション資源の分布状況
(実施区域周辺)

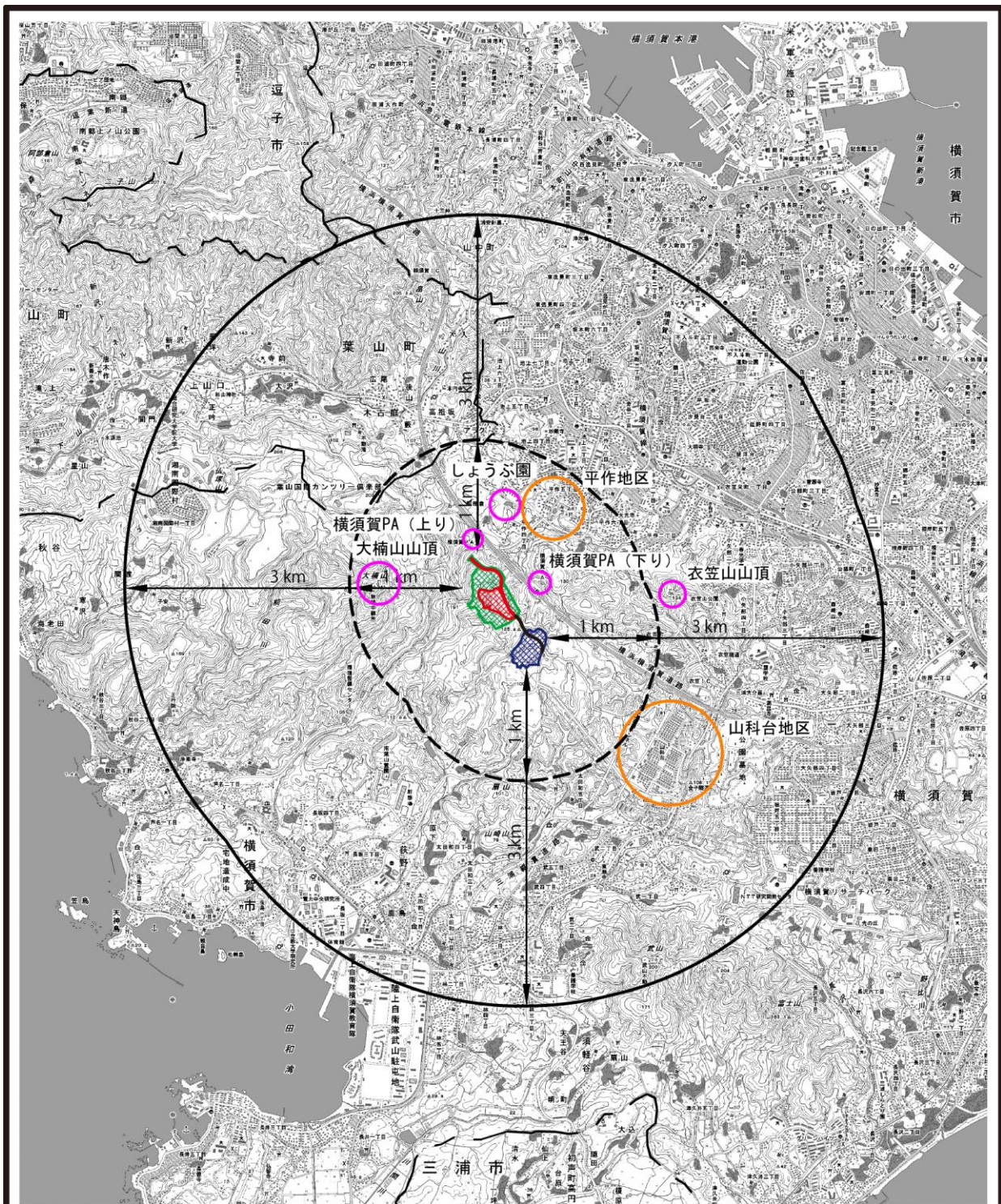
3.3 地域景観の特性状況

本市は、三方を東京湾、金田湾及び相模湾の海に囲まれ、大楠山、衣笠山、武山及び野比にかけての市域中央部に連なる丘陵地、海岸部及び内陸部の市街地などから構成され、また、鎌倉時代の三浦一族の史実や開国期を彩った歴史と文化の資産、多くの外国人の居住による国際的雰囲気と市民レベルで広がる国際交流、横須賀芸術劇場や先端的な研究開発機関の集積などの地域資源がある。

「横須賀市景観計画書」（平成23年4月1日以降）において、景観計画の区域は、市域全域とされており、その中で、良好な景観の形成に関する方針として、「横須賀の自然、歴史等の資源を生かした景観を育むこと」、「横須賀市の特徴である海や緑豊かな丘陵地等への良好な眺望を保全すること」、「地域にふさわしい魅力的な町並みを育むこと」の事項について積極的に取り組むものとされている。

実施区域は、衣笠・大楠山近郊緑地保全区域内に位置し、実施区域周辺は、山地に囲まれており、主要な景観要素として緑地景観が挙げられ、主要な眺望地点としては、大楠山山頂、衣笠山山頂、横須賀PA（上り、下り）及びしょうぶ園、身近な視点としては、平作地区及び山科台地区が挙げられる（図3-2-26参照）。なお、主要な眺望地点である大楠山山頂は、「神奈川県景勝50選」に選定されている。

実施区域は「横須賀市景観計画」において、眺望景観保全区域の指定はされていない。



凡例

- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
- : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
- : 発生土処分場
- : 市町界
- : 新設搬入道路
- : 既設改修道路
- : 主要な眺望地点
- : 身近な視点

出典：「横須賀土木事務所管内図」(平成20年、横須賀土木事務所)
「横須賀市域図」(平成18年、横須賀市)



図3-2-26 主要な眺望地点
及び身近な視点

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

(空白)